

令和7年度 東広島市立河内小・中学校 研究構想図

【児童生徒の実態】

- ・個々の活躍の場を多く設定したりして、様々な取組に挑戦しやすい環境にある。
- ・小学校では年々児童数が減少している。中学校では学習や行事、特別活動等において目標設定をすることが難しいため、各活動に主体的に取り組むことができず、達成感を感じにくい現状にある。

学校教育目標

「夢と志」をもち、未来に向かって
果敢に挑戦する児童生徒の育成

研究主題

ゴールに向かって主体的に学び続ける児童生徒の育成
～「問いを創る授業」の手法を活用した課題発見・解決学習を通して～

【研究仮説】

指導者・児童生徒が授業のビジョンを共有し、「問いを創る授業」の手法を活用した課題発見・解決学習を仕組むことで、児童生徒はゴールに向かって主体的に学び続けることができるであろう。

【研究内容】

(1) 授業改善の推進

- ・「問いを創る授業」の実践
- ・指導者・児童生徒が単元を見通せる「ビジョンシート」の作成・活用
- ・ICT機器のより一層の活用
- ・授業研究における小中学校教員の相互参観、研究協議

(2) ゴールやプロセス、振り返りを意識した家庭学習の工夫

【河内中学校区で目指す15歳の生徒像】

- ・自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる生徒
- ・自他を尊重し、自ら考えて、よりよく行動できる生徒